

(参考資料 1)

REAC/TS(放射線緊急時支援センター / 研修施設)(Radiation Emergency Assistance Center/Training Site)

米国エネルギー省 DOE(Department of Energy)により管理運営されているオークリッジ科学教育研究所 ORISE(The Oak Ridge Institute for Science and Education)の中の一つの部門。

REAC/TS 自体は緊急用の除染施設をもつものの入院設備を持たず、事実上診療スタッフを持ちません。患者の受け入れは隣接するメティカルセンターの協力のもとに治療を行います。アメリカ国内で必要があれば専門家を派遣し助言・指導を行います。教育/訓練を重要視しており、研修会を開催しています。このセンターはアメリカ・テネシー州にあります。

ホームページは <http://orise.orau.gov/reacts/>

緊急被ばく医療コース (REAC/TS のホームページを参考に作成)

このコースは、放射線事故または原子力事故で発生した患者の救急治療を行う可能性がある医者、看護師等の医療関係者 (病院到着前に対応する救急隊員を除く) を対象としています。

このコースの特徴は、放射線に被ばくした、または放射性物質に汚染された患者への病院における初動対応を、講義と実用的な演習の実践を通して学ぶことです。

このコースは、放射線物理学の基礎、放射線の検出・測定・同定、汚染拡大の防止、被害者等の放射線量を最小にする方法、汚染された被害者を治療する際の医学物理士/保健物理学者の役割、トピックとしては、初期評価、急性放射線症候群 (ARS)、局所被ばくによる急性障害、皮膚障害と複合的な障害の処置、また入門編として一般的な放射線源、放射線/核テロリズムと病院での備えについての科目が用意されています。

(参考資料2)

これまでの緊急被ばく医療研修の実績

放射線の利用が多様化する中、有事の際に迅速かつ適切な被ばく医療対応ができる医療従事者および初動対応者の育成は不可欠です。放医研は、わが国の三次被ばく医療機関として、またアジアの被ばく医療先進国として、数多くのセミナーや講習会を通じて国内外の被ばく医療従事者の育成を図ってきました。特に、放医研が行う人材育成では、各地域における被ばく医療の中心的な役割を担うリーダーの育成に重きを置いています。海外の被ばく医療従事者育成については、著しい経済発展を背景に原子力・放射線の利用が急速に進むアジア地域を中心に展開しており、国際シンポジウムやワークショップによって「国境を越えた顔の見える緊急被ばく医療ネットワーク」の構築にも取り組んでいます。

国内向け：

緊急被ばく医療セミナー（1997年8月～2009年2月、30回、574名）

NIRS被ばく医療セミナー（2009年11月～、2回、51名）

放医研が被ばく医療事業で受け入れたアジアの被ばく医療従事者

（海外向けセミナー、シンポジウム、国費留学等）

